［様式第３号］

資料提供年月日	平成２８年１月２６日	
問い合わせ先	課名	文化振興課
	電話	直通　803-1054 内線　3742
	担当 （職・氏名）	課　長　岸 副主査　高塚 主　任　岸本

広報連絡
〈市長定例記者会見資料〉

１　件　　名　　第３１回「坪田譲治文学賞」の受賞作決定について

２　趣　　旨　　岡山市出身でわが国の児童文学に多大な功績をのこした故・坪田譲治氏（岡山市名誉市民）をたたえる「坪田譲治文学賞」の本年度の受賞作決定について発表します。

３　受 賞 作　　『いとの森の家』　ポプラ社
東　直子（ひがし　なおこ）著

４　選考経過　　平成２６年９月１日から２７年８月３１日までの１年間に、全国で刊行された小説・児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された９２作品について、予備選考会を経て候補作４作品を選定。
平成２８年１月１２日（火）開催の選考委員会において審査し、上記の作品が選ばれました。

５　贈呈式・記念行事
○日　時：平成２８年２月２７日（土）１５：００～１７：００
○場　所：西川アイプラザ（岡山市北区幸町１０－１６）
○その他：現在、参加者募集中です。

６　問い合わせ先
岡山市文学賞運営委員会事務局
〒700-8544　岡山市北区大供一丁目1-1　岡山市文化振興課内
TEL：086-803-1054　FAX：086-803-1763
E-mail：bunkashinkou@city.okayama.jp

［添付資料］
資料１　　第３１回「坪田譲治文学賞」受賞作について
資料２　　「坪田譲治文学賞」について
資料３　　「坪田譲治文学賞」受賞作一覧
補足資料　坪田譲治文学賞贈呈式・記念行事チラシ

資料１

第３１回「坪田譲治文学賞」受賞作について

（文中敬称略、５０音順）

受 賞 作　　『いとの森の家』　ポプラ社
受 賞 者　　東　直子（ひがし　なおこ）
正　　賞　　賞状及び記念品（メダル『鳥の少年』蛭田二郎作）
副　　賞　　１００万円

◆選考経過

平成２６年９月１日から平成２７年８月３１日までの１年間（※）に全国で刊行された小説、児童文学等の中から、小説家・児童文学者等から推薦された９２作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作４作品を選定。

これを、平成２８年１月１２日（火）開催の第３１回坪田譲治文学賞選考委員会（会場：東京都千代田区平河町「ルポール麹町」）で慎重に審査した結果、東直子著『いとの森の家』が選ばれた。

選考委員は、阿川佐和子、五木寛之、川村湊、高井有一、西本鶏介、森詠の６名。

※選考の基準日は９月１日（岡山市文学賞条例施行規則第２条）

◆受賞者略歴

1963 年、広島県生まれ。東京都在住。歌人、作家。早稲田大学教授。1996 年、第 7 回歌壇賞受賞。2006 年『長崎くんの指（のちに『水銀灯が消えるまで』に改題）』で小説家としてデビュー。歌集に『春原さんのリコーダー』『青卵』『東直子集』『十階』、小説に『とりつくしま』『さようなら窓』『薬屋のタバサ』『甘い水』『らいほうさんの場所』『私のミトンさん』『トマト・ケチャップ・ス』『いつか来た町』、『晴れ女の耳』、エッセイ集に『耳うらの星』『千年ごはん』『鼓動のうた』『短歌の不思議』『七つ空、二つ水』、絵本に『あめ ぽぽぽ』『ぷうちゃんのちいさいマル』、共著に『回転ドアは、順番に』『トリビュート百人一首』など著書多数。

◆受賞者コメント

この度は、思いがけず素晴らしい賞を受賞させていただき、たいへんうれしく、光栄です。ありがとうございます。

『いとの森の家』は、福岡県糸島を舞台に、実体験を反映させて描いた物語です。主人公の家族や親友、鍵となるおハルさんにはモデルがいますし、引用した俳句は実際に死刑囚が書き残した作品です。今回の賞は、それらすべての人や土地の力が与えてくれた賞だと思っています。

十歳の加奈子が垣間見た命の記憶を、今後も世代を超えて共有することができればたいへん幸いです。

資料１

◆作品の概要

福岡市内の団地暮らしだった加奈子は、父の突然の思いつきで、山々に囲まれた村に引っ越すことになった。都会とのギャップにとまどいながらも、楽しい遊びを教えてくれる同級生たちと触れ合い、自然の恵みに満ちた田舎の暮らしに次第に魅了されていく。中でも特別な存在は、童話に出てくるような家に住む素敵な笑顔のおばあさん・おハルさんだった。

だが、大人たちの中には彼女を敬遠する人もいる。それはおハルさんが毎月行っている死刑囚への慰問が原因だった。なぜおハルさんは、死刑になるような人に会いに行くの……？　そんな素朴な疑問から、加奈子はおハルさんからさまざまな話を聞くようになり、命の重みや死について、生きていくことについて、考えるようになっていく。

福岡・糸島の豊かな自然の中で、子どもから少女へ移りゆく主人公の姿が瑞々しく描かれた物語。装画は著者自身の描き下ろし。

◆選考委員のコメント　西本　鶏介（児童文学作家）

豊かな自然とやさしい村人たちに囲まれた幸福な少女時代の記憶を情感たっぷりに描きながら、いのちの重さと他者への思いやりの尊さを静かに、だがしっかりと問いかけてくれる。とりわけ「死刑囚の母」と呼ばれる老婆のすぐれた人間性が主人公との交流を通していきいきと迫ってくる。楽園にも見える風土の描写もすばらしい。坪田賞にふさわしい子どもも大人も共感できる小説である。

◆【参考】今後の日程

〇贈呈式・記念行事　平成２８年２月２７日（土）１５時～１７時
［岡山］西川アイプラザ

〇祝賀会　平成２８年３月２４日（木）１８時～１９時３０分
［東京］ルポール麹町

資料２

「坪田譲治文学賞」について

（文中敬称略、５０音順）

岡山市出身で、わが国の児童文学に新しい分野を拓いた坪田譲治のすぐれた業績を称えると共に、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資することを目的として、昭和５９年１２月に「坪田譲治文学賞」を制定しました。

◆坪田譲治文学賞

［目　　的］　岡山市出身の小説家・児童文学作家で、岡山市名誉市民の坪田譲治の文学活動における偉大な業績を称えるとともに、市民の創作活動を奨励し、市民文化の向上に資する。

※坪田譲治（つぼた　じょうじ）

明治２３年（1890年）３月３日生～昭和５７年（1982年）７月７日没

［対　　象］　9月１日を基準日とし、前１年間に刊行された文学作品（小説、児童文学等）。

［選　　考］　文学・出版関係者等から推薦された作品について、「大人も子どもも共有できる世界を描いたすぐれた作品」という観点で、予備選考会を経て候補作４～６作品程度を選定。その中から選考委員が最終選考を行い、受賞作を選定する。

［表　　彰］　正賞　賞状及び記念品（メダル『鳥の少年』蛭田二郎作）

副賞　賞金１００万円

［選考委員］　阿川佐和子、五木寛之、川村湊、高井有一、西本鶏介、森詠（６名）

資料３

「坪田譲治文学賞」受賞作一覧

回次	年度	作品名	著者名	出版社名
第1回	S60	心映えの記	太田　治子	中央公論社
第2回	S61	ふたつの家のちえ子	今村　葦子	評論社
第3回	S62	ぼくのお姉さん	丘　修三	偕成社
第4回	S63	四万十川－あつよしの夏	笹山　久三	河出書房新社
第5回	H1	身がわり－母・有吉佐和子との日日	有吉　玉青	新潮社
第6回	H2	おどる牛	川重　茂子	文研出版
第7回	H3	こうばしい日々	江國　香織	あかね書房
第8回	H4	卵洗い	立松　和平	講談社
第9回	H5	半分のふるさと－私が日本にいたときのこと	李　相琴	福音館書店
第10回	H6	オサムの朝	森　詠	集英社
第11回	H7	泣けない魚たち	阿部　夏丸	ブロンズ新社
第12回	H8	ぼくたちの＜日露＞戦争	渡辺　毅	邑書林
第13回	H9	ぼくはきみのおにいさん	角田　光代	河出書房新社
第14回	H10	ナイフ	重松　清	新潮社
第15回	H11	ウメ子	阿川　佐和子	小学館
第16回	H12	ニライカナイの空で	上野　哲也	講談社
第17回	H13	翼はいつまでも	川上　健一	集英社
第18回	H14	麦ふみクーツェ	いしいしんじ	理論社
第19回	H15	人形の旅立ち	長谷川摂子	福音館書店
第20回	H16	ペーターという名のオオカミ	那須田　淳	小峰書店
第21回	H17	ぎぶそん	伊藤　たかみ	ポプラ社
第22回	H18	空をつかむまで	関口　尚	集英社
第23回	H19	しずかな日々	椰月　美智子	講談社
第24回	H20	戸村飯店青春100連発	瀬尾　まいこ	理論社
第25回	H21	トーキョー・クロスロード	濱野　京子	ポプラ社
第26回	H22	おれのおばさん	佐川　光晴	集英社
第27回	H23	鉄のしぶきがはねる	まはら　三桃	講談社
第28回	H24	きみはいい子	中脇　初枝	ポプラ社
第29回	H25	世界地図の下書き	朝井　リョウ	集英社
第30回	H26	クリオネのしっぽ	長崎　夏海	講談社
第31回	H27	いとの森の家	東　直子	ポプラ社